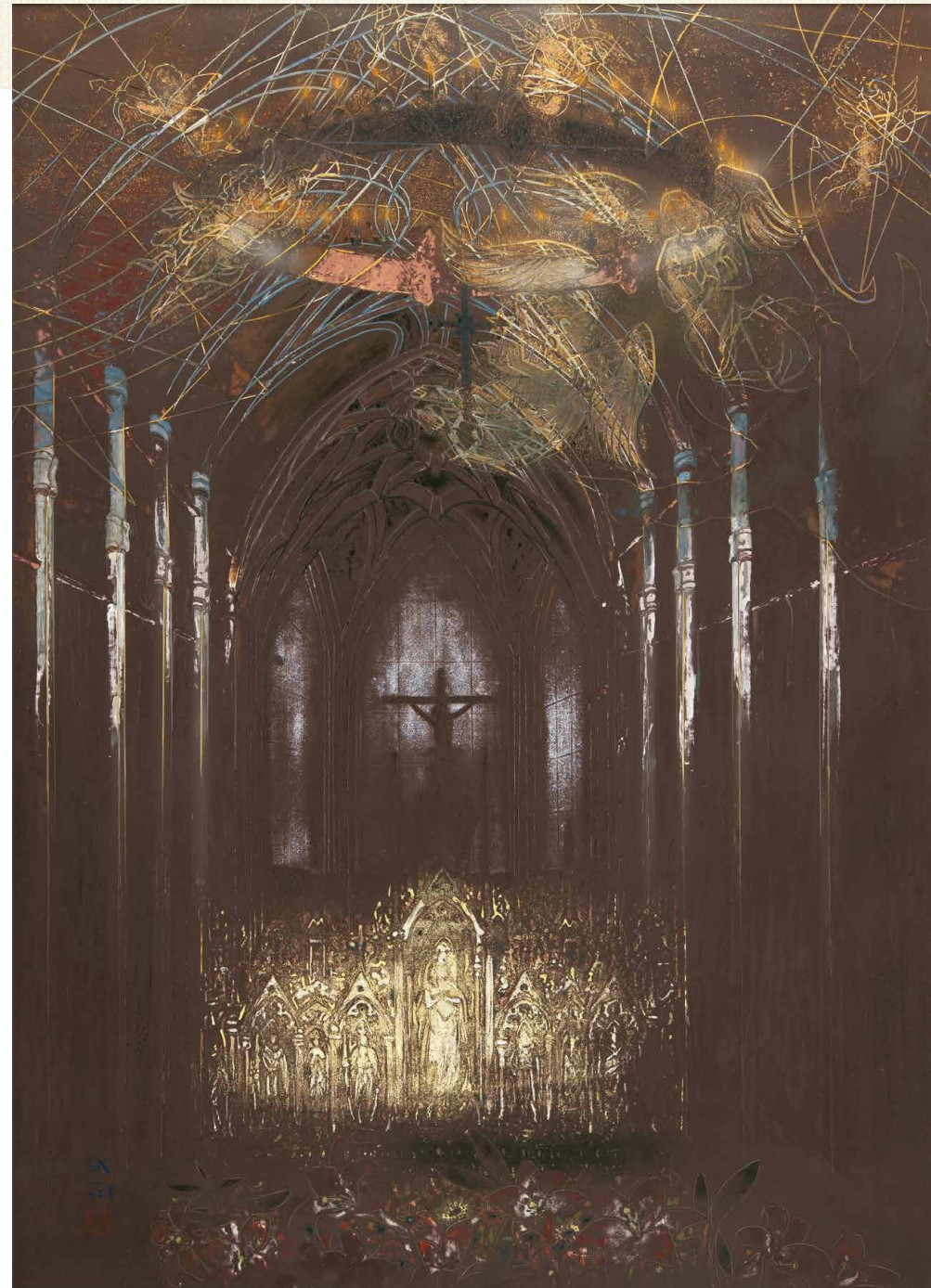


# 夢幻の世界へと誘う 吉村誠司の『意思』ある日本画

Seiji Yoshimura



本展出品作《礼拝堂》2019年 岩絵具、和紙 103×73cm  
チェコの教会を描いた1枚。厳かな薄暗い空間内に、レリーフや偶像が浮かび上がる。



吉村誠司 よしむら・せいじ

1960年、福岡県福岡市生れ。3歳の時に千葉県松戸市に移住。81年、東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻入学、85年に同専攻卒業。修士課程在学中に春の院展初入選。以後、院展では2度の日本美術院賞・大観賞を受賞するなど数々の受賞歴を誇る。2015年より同大学美術学部絵画科日本画教授。

## 窓

から射し込む外光によって浮かび上がる礼拝堂内のレリーフ、春の小川のほとりをたゆたいながら咲き誇る水芭蕉……ここに描かれているのは、いずれも現実の世界である。すべてが画家の目に映し出された光景であり、その意味で具象絵画なのだが、平面的な見慣れた日本画の表現とはかなり異質だ。色彩は岩絵具の奥底で光をとらえて輝くかのようにあり、加えて大小いくつもの要素が絶妙に組み合わせられた画面構成もまた、独自の世界観を創り出している。幻を見ているかのような不思議な感覚である。しかし、描かれているのは、紛れもなく実際に私たちがあるものたちなのだ。

作者である吉村誠司は、日本美術院の中心メンバーとして活躍する日本画家である。東京藝術大学で学び、修士課程在学中に春の院展初入選。以後、力のこもった彼の院展出品作は常に注目を集めてきた。古典研究によって培われた高度な作品構図、幾重にも塗り重ねられた岩絵具を削り出す技法から



本展出品作《春の小川》2019年 岩絵具、和紙 72.7×116.7cm  
青森県の蕨の森に咲く水芭蕉を描いている。大小の花と葉を組み合わせた画面は画家の心象風景のようにも見える。



第58回 春の院展 (Tree)  
2003年 岩絵具、和紙 100.0×72.7cm



上/再興第79回 院展・奨励賞《風化幻奏》  
1994年 岩絵具、和紙 174.0×209.0cm  
下/再興第83回 院展・日本美術院賞・大観賞《硝子を透して》  
1998年 岩絵具、和紙 173.5×210.5cm

生まれた色彩表現は、それまでの日本画の概念を一変させたとも評される。「私が院展などの団体展を大切に思うのは、そこにプロの画家たちの競争意識が働いているからです。会場に並んだ作品は、どうしても比較の対象に晒されます。もちろん一般の鑑賞者の主観的な評価もありますが、それとは別に、画家だからこその優劣があるのです。私は自作の隣に掛けられた他の画家の作品を見て、何度も悔しい思

いをしてきました。だから、次はもっと良い絵を描いてやろうと思うわけです」(吉村さん、以下同)  
そうした競争意識の中から向上心が生まれるのであり、そこにこそプロの画家としての存在意義があるのだという。そんな吉村は、とことん具象表現にこだわる画家としても知られる。「抽象絵画は、時に鑑賞者に強烈なインパクトを与えますが、それは元来デッサンやスケッチなどの具象表現がし

っかりできていればこそ。そうした基礎がない画家の作品には深みがないと私は思っています。だからといって、そっくりそのまま写真的に描けば良いということではありません。絵は、やはり塗り絵とは違う。見て、感じて、自分なりにどう描くかが、大切なのだと思います。すべての創作にこの意識を働かせることは、かなり難しいのですが、私はこの具象表現なるものを、可能な限り岩絵具で極めてみたい」

独創性溢れる良い絵を求めて、過去から学び、悔しさを味わい、前進する彼の言葉から滲み出る強い思いは、この画家が覚悟をもって絵画世界を追究している証左だろう。光と影を用いた写真的な表現には向いていないといわれる日本画の世界において、吉村が拓いてきた新たな地平は、従来の日本画という枠を飛び越え、西洋絵画のような空気感や立体感、さらには抽象的な精神性をも内包して、だからこそ鑑賞者を夢幻の景色へと誘うのだ。

「流行を追わず、奇をてらわず、自分に厳しく、そうやって不器用に追求した結果がオリジナリティな作品に繋がると信じて、これからも日々制作に取り組みんでゆきたいと思っています」

常に作品と真摯に向かいあおうとする、その強靱な意思が、画家のさらなる高みを期待させて、興味は尽きない。

## 吉村誠司 日本画展 浮遊

▶6月24日～29日  
▶日本橋三越本店 本館6階 美術特選画廊

住所◆東京都中央区日本橋室町1-4-1  
電話◆03-3241-3311  
開廊時間◆10:00～20:00(最終日は～17:00)  
休廊日◆無休  
入場料◆無料  
アクセス◆東京メトロ銀座線・半蔵門線「三越前」駅より徒歩1分、東京メトロ東西線「日本橋」駅より徒歩7分、都営地下鉄浅草線「日本橋」駅より徒歩5分  
URL◆[https://www.www.mitsukoshi.mistore.jp/nihombashi/shops/art/art/shopnews\\_list.html](https://www.www.mitsukoshi.mistore.jp/nihombashi/shops/art/art/shopnews_list.html)  
\*以後、福岡(福岡三越 9階 岩田屋三越美術画廊)に巡回予定。

\*新型コロナウイルス感染症の影響により、開催延期または中止となる場合がございます。ご了承ください。